

インフルエンザ

変異株の大流行か？

インフルエンザが大流行です。例年は年末に多少流行り、1月から2月が流行のピークになるのですが、今年は2か月ほど早いことになりました。

さらに流行の勢いも強いです。あつという間に地域全体に広がりました。特定の園や学校で発生しているという状態ではなく、ほぼ万遍なく、あまねく広く発生があるようです。

こんなふうに流行が早くおき、さらに大規模になったのは、変異株が関係しているようです。

●サブクレードネ

今現在流行しているのは香港型(H3N2)で、その中でもサブクレードネという変異株です。

これは今春イギリスで起きたと言われている、その後瞬く間に世界に拡がりました。

変異はウイルス表面のトゲにあります。ヘマグルチニンというタンパ

ク質の多くのアミノ酸が置き換わっています。特に144番目のアミノ酸が変化することで、ウイルス表面に「糖の鎖」ができました。これが免疫を逃れる働きをしています。

この変異により、症状も変化しています。以前はインフルエンザという突然の発熱で始まり、倦怠感、筋肉痛、関節痛、だるさなどの全身状態の悪さが一般的でした。咳や鼻水はあとで出てくるものでした。

ところがこの変異株では、発熱はありませんが、それと同時に咳、鼻水といった上気道症状が起きることが多いようなのです。他には咽頭痛、頭痛などもあります。関節痛やだるさは、むしろ少数のようです。

●変異株の影響

変異株の出現により、早くから流行が始まりました。11月中に大流行になったことは、あまり経験していない事態です。

さらに、いつものインフルエンザに比べて年齢がやや高い人たちが多いようです。小児科では小学生や中学生がそうです。内科では働き盛り

の30代、40代といった年齢層の感染が多い印象です。

幼児は少なめですが、これからまた増えてくるかもしれません。高齢者の患者数も増加していることでしょう。

●ワクチンの効果は？

気になるのはワクチンの効果です。ワクチン株の選定後に変異株が発生したために、ワクチンには考慮されていません。

やはり効果は少し少なくなっているようです。しかし、重症化予防の効果は過去の流行と同じ程度にあるとのこと。ワクチンを受けていたかどうかは、十分に価値があります。

もともと、流行の時期が早くてワクチンを接種する前、あるいは途中だったという方も多いかと思えます。

来年以降は今回の変異株が普通の季節性インフルエンザになるので、きつと流行は例年通りになるのではないか、と思っています。ワクチンの供給が始まるのが10月以降なので、例年と同様に接種を受けていた

だければ大丈夫かと思えます。

●異常行動に注意を

インフルエンザにかかると、異常行動が見られることがあります。夜泣きをしたり、親の顔を見ているのに「あなた、誰？」といった顔をしたり。

これは高熱に伴うせん妄状態で、軽度の意識障害があります。その場ではつきり目を覚まさせていただいた方が良いでしょう。

一部にタミフルの副作用だとする意見がありますが、これは違います。日本ではインフルエンザ患者にタミフルを処方することが多く、このような誤解が生まれました。実際にはタミフル以外の抗インフルエンザ薬でも起きていますし、薬を使っていなくても起きることがあります。

部屋の中を歩き回るなどの異常行動は危険です。嫌な夢を見ているようです。部屋の外に飛び出し、悲惨な事故に繋がることもあります。

熱のある間は決して子どもを一人にすることはせず、必ず親御さんなどが一緒にいてください。